

は、町民自らが病院の存続などに意見や危機意識を持つための導入部と考え、結論を誘導せずさまざまな問題の偏らない提示と情報公開をまず心がけた。最後に参加者にアンケート調査を行なった。ざっと集計したところ大方の評価はまずまずだがとくに第三部に物足りなさを感じている意見が多かった。黒松内という地域の特殊性（陸の孤島：車で1時間以内にほかの病院が無く札幌・函館に均等に遠い）から地域での初療体制の重要性は考慮しつつ、科目によって異なる八雲・倶知安の2つの2次医療圏とどのように連携するか（広域連携・集約化）、さらに総務省、道のガイドラインとどう組み合わせるか（診療所化の是非）、住民のできることはなにか（住民と医療機関との関わり）といった各論は次回以後のテーマとして続く予定。

医療従事者の視点からみた感想としては、医療機関形態と医療機能の関連性の説明や評価が今回のフォーラムでは曖昧であったことで、住民に診療所と病院の違いを分かりやすいものに表現できなかったことがまず一点。地域の医療問題を満遍なく論じたため焦点がやや不明になったことと、浅い理解のまま数字や資料を解釈されたのではという危惧が残ることが第二点。斬新な手法であるが、前座の第一部、二部に表現の冗長さがやや目立ち、第三部が主題に深く触れられずに時間切れであっさり終了した

感が否めない。さらに討論性の無いトークショー的に設えたことが反って聴衆に中途半端な印象を与えたようである。フォーラム内容がテーマに近づいてないと主催者に苦言を呈する勇氣ある？フロア発言が一件あり場が盛り上がる場面があった。フロアを巻き込む積極的な熱い討議を今後も期待する。会場の音響効果が今ひとつということもあって不完全燃焼感がやや残るが、町民主導、主催の問題意識の点火目的の第一回目としてはまず好発進というところか。初めての試みを時間の無い中で実現した茂尾委員長ほか医療を考える会フォーラム実行委員会のメンバーの努力と熱意に敬意を表しつつ今後の発展に注目したい。



お知らせ

北海道ナースセンター事業について

◇医療関連事業部◇

近年、看護師の不足が問題となっていることから、その対策のひとつとして北海道看護協会では、北海道から委託を受けて「ナースセンター事業」を実施し、看護職の求人・求職をサポートしております。

看護職の確保・定着の推進は重要な課題ではありますが、結婚・出産・育児などで退職する方々が多数おります。

その方々が復職したいと思っても、最近の医療・看護技術の変化はめまぐるしく新しい知識を学ぶ必要があり、また退職前の勤務経験も多様なため即戦力として働けるとは限りません。

未就業期間はさまざまですが、復帰に関していろいろな不安を持っている人が多いのが現状であります。このような方々のためにナースセンターでは「看護職の求人・求職合同面接会」「再就業のための体験研修」等の事業を実施しています。

北海道医師会では、北海道ナースセンターが行うこれらの事業を全面的に支援し、看護師の確保・定着を推進するため、本号付録において周知することといたしましたので、本事業の趣旨をご理解の上ご協力いただきたくご案内申し上げます。

なお、本事業に関しましては、北海道看護協会ホームページ、看護協会ニュースにおいても案内されております。